

番に當つた子は、幕の外に見張りをして居ます。すると幕の中から、一人づゝ、幕の真中の切口の所へ目だけ出すのです。目探しは、此目を見て「誰さん」といつて當てる、當てたら、幕の中へ這入らして貰つて、當られた人が、代つて、目探しの役になるといふのです。

目を出すときは、ほんの目だけで、髪だの口だのが見えない様になければなりません。やつてむらん、屹度面白いです！



# 家 庭



本篇は寺田先生が過般、大坂教育會に於てせられたる演説なり、家庭に取りても、學校に取りても、頗る有益にして趣味深く覺えたれば、同先生に乞うて、悉皆茲に轉載するの榮を得たるものなり。

## 吾人身体上の悲觀

寺 田 勇 吉

私は博覽會の用務を帶て大坂に參つて居りました處が高等女子教育部の諸君より何か御話をせよといふことでござりました、然るに當時種々の用務かござりまして、特に何か女子教育に直接關係を有つて居る御話しを取調べて申上げる余暇が

ござりませぬ、止むを得ず吾人の体格上の悲しき有様に就て御話しを申して見る積りでありますが折角女子教育に熱心なるお方々の御集りでござりますから努めて、女子に關係の有る部分を申上げて見やうと思ひます、

諸君も定めし御承知でございませうが先達中東京の新聞に大に吾々の悲むべきことが書てありました、此は吾々日本人に對しては實に近來の大なる問題と謂つて宜からうと私は信じます、それは何であるかと申しますと、即ち明治三十五年度の徴兵検査の結果に依ります、其結果に依りますと、其壯丁の身長及び体重といふものは、年々歳々減少する之を一昨年即ち明治三十四年度の調査に比べて見るといふと、身長に於ては二分減つて仕舞つた、それから又体重に於て十二分減じ

ました、斯ういふことが殆んど各種の新聞に書てあつた、是は私は大に驚くべきことであつて、實に憂ふべきことであると思ふ、何となれば果して、徴兵検査の結果の如く、年々歳々吾々同輩の身長が小さくなり又体重が減ずるといふことであつたならば將來如何なる悲しむべきことか吾か日本國に起りますか、二分といふことは僅かでありますけれども、餘程吾々は講究して其原因を調べて、實際減らないやうにしなければならぬ、一寸した御話でありますか、諸君の中にも定めし御子息さんがお有なさる御方が澤山ありませう、此子供の成長することは早いもので、去年拵へた着物は今年に短い、今年拵へた着物は來年は短かい、随分年々のことで厄介であります、併し若し今年は去年拵へた着物が大きい、來年は今

年拵へた着物か大きいといふ反對の現象があつた  
 ならば非常に吾々は悲しまなければならぬ、故に  
 吾々の体重が年々十二匁減り、身長が二分減ると  
 いふことは却々容易ならぬことであります、若し  
 何かの間違ではなからうかと思ひまして、陸軍省  
 の徴兵検査に從事して居る友人に問ひました、然  
 るに陸軍の當局者は辯して曰く、決して間違でな  
 い、實際徴兵検査にて取調べた結果年々歳々吾々  
 の体格は悪くなるといふ斯ういふ報告を受けたの  
 であります、御承知でありませうか、佛蘭西の國  
 に之は似寄つたことがある、佛蘭西の人口は吾が  
 日本國の如く矢張年々増殖して參ります、其増殖  
 する割合が年々減じて行く例へば假りに作蘭西の  
 人口は本年は三千五百万であるとし、來年は三千  
 六百万即ち百万人殖えた、其翌年は三千六百五十

二十四  
 万といふ工合に増加して行きまして増加する割合  
 が年々に減つて來る、して見ると是から、何百年  
 といふ後には一人も増加することのない、年が  
 何年か一遍來るに相違ない、若し其年が來たなら  
 ばどうであるか、即ち其年は増加の「ゼロ」の年  
 である。其翌年は段々と人口が減るといふ方にな  
 る譯であるから佛蘭西にては大變に心配して居る  
 詰りさういふ割合で行つたならば、佛蘭西は自然  
 に滅亡して終る、是は政治家のみならず、國民一  
 般に深く心配して、此事に就ては原因があるのだら  
 うから、其原因を取調べて佛蘭西の人口をモット  
 盛にしなければならぬといふて騒で居ります、  
 現に何れの國を見ましても、人口の増殖しまする  
 國は家も新しく澤山に出來て國も益々盛なる國で  
 あります、人口の増殖する國、新築の家屋が増加

を示して居る、國は益々發達する國である是は統計學上争ふべからざる事實であります、佛蘭西では此事に就て種々其の原因を取調べて居りますが其原因の重なるものは、物價が段々と騰貴して來て、容易に人が結婚することが出來ぬ、容易に妻帯することが出來ぬ、又物價の高い爲めに、子供を以て貧乏の暮を爲し終日苦しむよりは、成るべく懷妊をしない工風をするが宜いと申して居る、殊に佛國にては婦人が自分で子供を育てると早く、年を取るといふことで中等以上の婦人は之を避くる爲めに乳母に小供を託し且つ成るべく子供を生ませぬ算段をして居る、従つて墮胎といふ惡風が行れる、其外に御承知でもありませんが歐羅巴人の中で最も酒精を多量に飲用するものは佛蘭西人でありませぬ、歐羅巴にては、獨逸人も非常に澤

山「ビール」を飲みませぬ、男も、女も、子供も、頻りに飲む、併しながら獨逸の「ビール」は「アルコール」が至て少く、我國にて飲む所の「ビール」より少くから従つて害も少くやうに思はる、是に反して佛蘭西人は葡萄酒を水の如くに飲んで居る、是が子供の澤山出來ぬ所の一原因である、其他又生活の困難なる爲めに未婚の男女の數が非常に多く生涯人の妻となることの出來ぬ女子が澤山居る、是は佛蘭西許りではありませぬ、獨逸邊りでも六七十位の御嬢様が幾等もありませぬ、日本の言葉にては御嬢様と申すと皆若い女子許りを申しますが、歐洲にては六、七十歳のお姫様が幾らもありませぬ、終身結婚の出來ぬものが澤山居ります、私は獨逸に居りました時に、或る家を訪問しました其主人が御嬢様といふから、日本

の所謂お嬢様と思つて居りましたが、實際は齒の脱けたお嬢様でありました、最初の中は随分奇異に思ひました、その原因は何であるかといふと結婚が六ヶ敷から終生人の妻とならずに獨身にて暮して居るものが多い、それから品行悪く私生兒が多い此私生兒は極めて多く死亡します斯の如き次第でありてそれには佛國にては心配して官民の區別なく頻りに、佛蘭西人口増殖の道を計つて居る、中には雙生兒三生兒を生んだものは獎勵金を給するがよい、成るべく餘計に小供を生まして、どうかして、獨逸と戰爭をしても、敗けないやうにしたい、此儘にしては、遂に我國は獨逸國の爲めに取らるゝやうになりはしないかと、非常に佛蘭西では心配して居る

歐羅巴人と日本人との身長、並に体重の比較を

申しますると歐羅巴人は（無論丁年以上のもの）平均十七貫三百目ある、所か我國の男子の平均は（丁年以上のもの）体重が何程あるかといふと、十五貫目ある即ち歐羅巴人一人に就て、我國人一人に比較して見るといふと、其差が二貫三百目宛あります、身長は歐羅巴人の平均は、平均五尺五寸、日本人の平均は五尺二寸即ち其差が三寸である、西洋人に較べて見ると、日本人は少さく且つ軽い、ことは争ふべからざる事實である、歐羅巴へ行つても吾々は耻かしい事が多ひ、現に私は大きな耻をかけた、それは、何であるかといふと、英國の「リバブル」を出て、亞米利加に行きまする時分に餘程寒かつた爲めに、出来合ひの着物を買つて、行かうと、或る店に参りまして、出来合の暖い着物を見せて呉れと申しました所が番頭

が、宜ろしゆうとぞいますと謂つて、案内した所が「ボーイ」の分類的部分即ち、小供の分類的の方に案内された、私も日本人の方ではさう身長の低い方ではありませぬが、それでも、小供の方の分類に入られたのであります、其部屋に這入つて見ると、吾々に適當の着物があゝる勿論我のみならず日本の書生杯の彼國に留學して居るものは、凡て小供の部屋に入れられるのである、殊に餘程日本の女子は小さい、幾ら立派の女である日本では思ひましても、外國の人の方が甚だ高い、日本人の婦人は殊に小さい、彼國に行きまして、不愉快を感じるのは獨り着物のみならず、手袋でも、靴足袋でも、「シャツ」を買つても何でも漢でも吾々の身体に適するものはない、杖などもさうである西洋で買った杖は杖いて歩くのでなく持つて歩か

なければならぬ、長けが二三寸も長いのであるから、善い工合に杖を持つことが出来ぬ、又外國人と一緒に散歩しまするに、外國人は「コンバス」が長い、外國人は一步に二尺五寸も歩くに、日本人は、二尺位であるから骨が折れる、吾々日本人は一時、外國人と競争して行くことが出来る併しながら長時間になるといふと、到底及ばない、とうも西洋人と急に同じになれといふことは出来ませぬが、吾々の身体か、年々歳々小くなるといふことは、大變なることである、獨逸人の如きは長さ歲月の間に、文化の進むに従て、身長が、二分三分といふやうに増して來た、西洋人は大きい上に段々と大きくなつて來る、我日本人は小さい上段々と小さくなつて來る、實に悲しむべきものである、現在開港場に於て歐米人の水兵が亂暴する、

そこで日本の巡查が一人で抑へると云ふことが出来ぬ、二人も掛らなければ外國の一水夫を抑へることが出来ない唯に歐米人の水兵のみならず、支那朝鮮人でも、却々吾々より體格が宜い、日清戰爭の際に、随分日本人二人にて擔た荷物を朝鮮人一人で脊負ふて行た事もある實に悲むべき事であるそれで、此年々一人に就き徵兵検査の結果、二分宛減少するといふことは、假りに吾邦人の四千人と假定すれば一ヶ年に四十万尺減ずるのである、富士山の高さは一万二千尺である、其三十三倍からである、それ丈一年に吾々の身長が減つて行く、即ち凡そ我が里程にして、三十里許り減ずることになる、一ヶ年一人にては、何でもないやうでありますが全國の人民となると非常なるものである

それから、目方は十二匁一人に就て減る、是も四千万人に計算すれば、四億八千万匁となる、それ丈吾々の目方が年々輕くなる、人間の目方の價は何位あるものだからは計算致し難いけれども、假りに金の價と同じものと計算して、一匁五圓と計算した時には、一人に付年々六十圓丈吾々の身體の量が減る、即ち全國にては一年に二十四億万圓の損である、斯ういふ大きなものになる、決して輕々と打捨て置くべき問題でない、無論實際必ずさうなるとは謂ひませぬが、兎も角も三十四、五年の徵兵検査に依りますると、さういふことになり、而かも、三十四、五年許りでない、陸軍省の公文を以て見ましても、年々歳々身體が悪くなつて來る、私は是は容易ならぬことであらうと思ひます、一年二分減る、十年二寸減る、

二百五十年を経過するといふと日本人は滅亡して  
了う、吾々五尺五寸の身體は無くなつて了う、ど  
うしても、今日の通りにして置くことは出来な  
い、身長の方からいふと、二百五十年の後には、  
日本の島は無入島になつて了う、唯臺灣人、琉球  
人「アイノ」の人種が残る丈であります、兎に角  
本洲は無入島になるといふ決定が出来るそれで今  
日では吾々の身體の有様が如何様であるかの事に  
就ては統計上の調査も不充分ながら、あるが、明  
治維新前には統計上の調査がないから昔の人の身  
體の模様は漠として分りません、併し私は諸方を  
巡回して、古人の肖像、兎、現に博覽會内の日本  
體育會にも陳列してあるもので、古い時代に用ゐ  
た所のものを御覽になるといふと、餘程、其具足  
が大きい、新田義貞の用ゐたる具足、武器があり

ます、是は國寶の中であります、其兎を今日の人  
が冠るといふと目か隠れる、頭も左右に餘程餘地  
がある其他、新田義貞のみならず其他の人の用ゐ  
たる槍なり、刀なりを見ましても、統計はあり  
せぬが今日の人が小さくなつたといふことを認む  
ることか出来やうと思ひます、或は人に依て、古  
の英雄豪傑は大きかつたといふ説を立つる人もあ  
りまするか、必ずしも英雄は大きかつたといふこ  
とは認むることは出来ないのであります、それで  
統計はないけれども、日本人の身体は種々の原因  
からして小くなつて来る、殊に今日は明かに統計  
の調査に依て斯うなつて居るといふを解る、し  
て見ると、日本人は段々小さくなつて、又従つて壽  
命杯も段々と短くなつて来る、西洋人は年々幾ら  
か大きくなつて參りまするが、吾々日本人は何程



宛か小さくなくては來るから、之を防禦する所の策を講じなければならぬ（つゞく）

### 誕生日

我國ではひよつとかすると、親の誕生日や自分の誕生日までも知らない者がある位だから、まして友人の誕生日など、覺えて居る人は恐く少からうと、思はれる、所が、外國殊に獨逸邊りでは、誕生日を祝するといふことは、中々大切なことになつて居て、朋友同志互に、よく誕生日を記憶して居つて、其日になると、いろ／＼趣向をこらして送物をする、だからして、日本の留學生などがたま／＼友人の誕生日などを知らないで澄まし込んで居ると、彼の國人は、大變に之を不思議に思ふのも無理でない。

此誕生日につきて面白いことは、各自の家庭で親の誕生日に小供が夫々趣向を凝らして祝意を表するのである。或ひは短かい詩を作つたり、美しい文章をかいたりして親に捧げる者もある、或ひは親の好きな薔薇の枝で樹架を作つて送る者もある、或は數週間前からピアノの一曲を稽古して其當日に之を奏しようとする少女もある、或ひは其當日の前で朗讀せんために美しいフランスの詩を暗誦する少年もある、親を愛する真情からの此贈り物や、己の才能を表はす所の質朴なる此趣向が親に取つては如何ばかり嬉しいことであらう、聞く許りでも、既に其當日の家庭の如何に趣味深きか、察しられる、此美風は、どうか我國にも移して、父の誕生日、母の誕生日、祖父母の誕生日、子供らの誕生日と、一年中の日を定めて、これ